

2022.2.15

## 那須町環境課様への要望・提言

那須町環境課様への提言・要望は以下の通りです。ご検討のほど、よろしくお願いいたします。

### 1. 1月18日の意見交換の場で申し上げた要望

- (1) 那須町温暖化対策「事務事業編」について進捗状況の情報開示をお願いいたします。  
目標値、実施事業とその評価について開示をいただきたく存じます。
- (2) 那須町環境審議会の資料・議事録についての情報開示をお願いいたします。

### 2. 1月18日の意見交換踏まえての要望・提案

- (1) 温暖化対策「区域施策編」の策定には町民の幅広い参加を得て進めていただくようお願いいたします。1月18日のような意見交換の場が必要です。
- (2) 地域エネルギー推進の検討は行政だけでなく町民など行政以外の力を使い公開で検討するようにお願いいたします。官民の協議会のようなもの立ち上げをお願いいたします。
- (3) 温暖化防止の国のロードマップは、2025年度までに先行地域を100つって2030年度に脱炭素ドミノを起こそうというものです。那須町として先行地域になるようご検討いただきますようお願いいたします。前項と同様、行政だけでなく民間との協働をお願いいたします。
- (4) 温暖化防止には町民の参加意識が持てる施策が必要です。まちづくり懇談会でも提案させていただいた生駒市の事例のような施策です。生駒で活用している「生ごみ資源化装置 メタン君」に関する具体的な提案を別紙に記載させていただきます。

以上

(別紙)

2022.2.14

那須町 環境課御中

## 「友愛の森」におけるSDGs関連企画の提案

(本紙「要望・提案」、2(4)項についての具体案)

那 須 広 場 塾

私たちは「これからの那須町のあり方」について、行政の方のご意見も伺いながら、住民サイドの案作りを目指して活動している団体です。過日は環境課の方と意見交換の機会を設けていただき、有益な情報提供また現状分析をいただきました。ご配慮ありがとうございました。

私たちは今、「エネルギーの地消地産」「マイクログリッド設置」「那須町におけるSDGsの可能性」「自立した地域作り」に関わって「何が出来るか」を話し合っています。その中でアマタホールディング(株)が提供している「生ごみ資源化装置 メタン君」が話題になり、zoomでアマタの方からもご説明を頂きました。当該設備は大規模な形でも可能なのですが、今のところ那須町において億単位の支出は見込めませんので、地域を限定して実施する小規模な「メタン君」という設備なら可能ではないか、と思っております。「メタン君」は家庭から出る生ゴミを集めて液肥にする装置で、液肥化の過程で発生するメタンも火力として利用するというものです。規模にもよるでしょうが、費用は100万円から数百万円の範囲です。「メタン君」を設置する候補地として別荘地も検討しましたが、総会を開いて住民の同意を取る必要があり、定住者の少ない別荘地では難しいというのが私たちの結論です。

それで他の候補地を検討し、SDGs「住み続けられるまち作りを」に関連する試みの一つとして「友愛の森」に「メタン君」を設置してはどうかと考えました。友愛の森の再整備案はまだ確定していないと聞いていますので、追加案として検討可能だと思っています。

「友愛の森」という公開の場所にゴミを液肥化する装置を備えつければ、環境への那須町の取り組みの一つの宣伝にもなり、また生ゴミを減量化し有効利用する「メタン君」またはそれに類似した装置を各地に広めていく契機にもなると思っています。観光客が出す食べ残しも「メタン君」で処理できますし、何よりも「那須町の取り組み」というアピール力に優れています。友愛の森で廃油収集も行っていますが地元の人以外には知られていませんし、単に回収場所として定められているだけで「那須町の取り組み」の一つとしての発信力にはまったくありません。

生ゴミは汚い、匂うと言って見えないところで処理するのではなく、毎日の生活で必ず出ますから、その処理・有効利用を「見える化」する努力が大切であると私たちは考えています。

簡単な資料を添付しますが、詳しくはアマタホールディング(075-277-0378(代表))または当塾にお問い合わせ下さい。

また、この企画に関して私たちが考えるメリット等を以下に列記してありますので、ご検討の上、私たちの提案について、ご回答をくださるようお願い致します。

#### 「メタン君」を友愛の森に設置するメリット

- 1 那須町として「ゴミ減量化・資源化」に取り組んでいる姿勢を観光客等に強くアピールできること
- 1 友愛の森は観光客だけでなく、多くの那須町住民が買い物等で訪れる場所であり、「ついでに」といった感覚で生ゴミを出してもらえること
- 1 大きな掲示板をみんなに見えるところに設置すれば、分別について変な使い方をする人は少ないであろうし、ゴミの有効利用についてみんなが考える契機にもなること
- 1 設置費用が高額でないこと
- 1 多くの方がやっている家庭菜園用に液肥を提供できること

#### 検討が必要なこと

- 1 管理者をどうするか
- 1 メタンガスの利用方法
- 1 設置場所をどこにするか

以 上

## 動植物性残渣の再資源化方法

動植物性残渣の再資源化方法としては、メタン発酵、飼料化、肥料化、等があります。今回はその中の一つ、メタン発酵についてご説明します。メタン発酵とは、動植物性残渣等の有機物を嫌気状態で微生物に分解させ、バイオガスを発生させるシステムのことです。バイオガスの主成分であるメタンは発熱量があるため、ガスエンジン や燃料電池等の発電設備の燃料として活用することが出来ます。

平成 24 年 7 月「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」（通称 FIT 制度）によって制定された再生可能エネルギーの固定価格買取制度によって、発電された電気は、「再生可能エネルギー」として売電することができ、廃棄物からエネルギーを抽出できるシステムとして再度注目されている技術です。

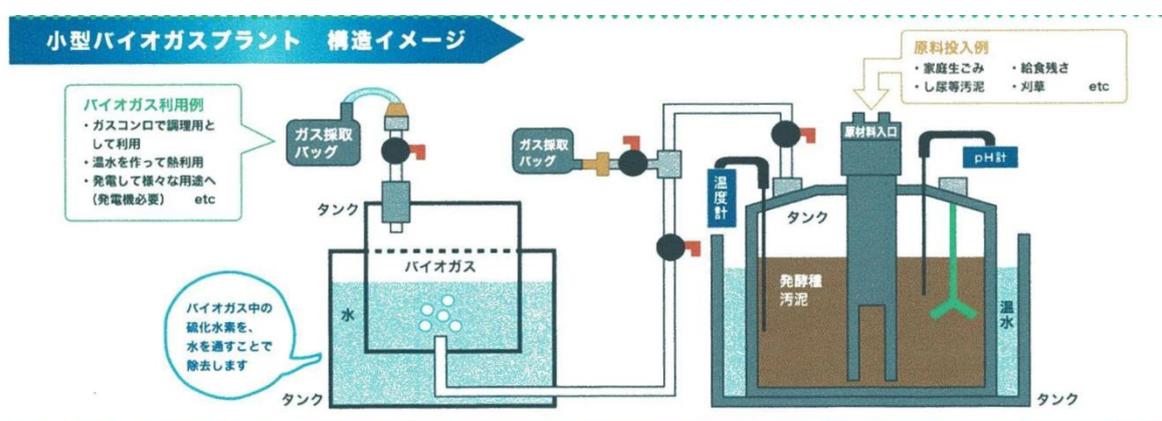
### 動植物性残渣をバイオガス発電で活用するためには

動植物性残渣の再資源化のポイントは、水分や塩分等の含有量、成分の安定性や均一性、荷姿等です。再資源化方法の特性に合わせて、発成品の見直し・改善を行えば、より安価で付加価値の高い再資源化につながります。例えば、分別作業が難しい個包装された発成品でも、分別機械の導入等、分別作業の工夫により、再資源化が可能になる場合もあります。

(アミタ (株) 末次 貴英 (<https://www.amita-oshiete.jp/qa/entry/001899.php>))

### バイオガスプラントの基本的な仕組み

([https://www.amita-hd.co.jp/news/images/biogas.pdf?\\_CAMCID=IzHvnufjgA-967&\\_CAMI=3.3.0.0.DIPdBiMiDHgA.ePDbIMidhga-36&\\_CAMSID=ePDbIMidhga-36&\\_CAMVID=DIPdBiMiDHgA&\\_c\\_d=1&\\_ct=1642914705924](https://www.amita-hd.co.jp/news/images/biogas.pdf?_CAMCID=IzHvnufjgA-967&_CAMI=3.3.0.0.DIPdBiMiDHgA.ePDbIMidhga-36&_CAMSID=ePDbIMidhga-36&_CAMVID=DIPdBiMiDHgA&_c_d=1&_ct=1642914705924))



「メタン君」を設置している奈良県生駒市の例 (抜粋 詳しくはHPで閲覧可能です)

2021-10-29

奈良県生駒市

“ごみすて”で住民交流を促進させながら、循環型まちづくりを目指す。

ごみ

地域振興



生駒市では、世代を超えた住民交流を促し、つながりが増えた地域の力によって、環境問題をはじめとする様々な課題の解決を目指す事業を展開している。その背景には、住民同士による互助・共助の仕組みを何とか維持したいという思いがあるという。今回は、住民同士が交流を図りながら、循環型まちづくりにも貢献するというユニークな事業について、同市の白川さんに聞いた。

※下記はジチワークスVol.16(2021年10月発行)から抜粋し、記事は取材時のものです。

## 高齢者中心のコミュニティを軸に新たな交流の場づくりを模索していた。

長らく大阪のベッドタウンとして発展してきた同市だが、少子高齢化や子育て世代の都心回帰などの影響もあり、現在においては、子育てを終え、定年を過ぎた高齢者夫婦の比率が高くなっているという。

同市では、この状況を以前から注視しており、介護予防という観点で他自治体で考案された「いきいき百歳体操」を積極的に採用。現在も80を超える自治会館などの拠点で実施するなど、市と住民が一体となって誰もが健康に暮らせるまちづくりを進めてきた。

しかし、高齢者のコミュニティが発達した一方で、その他の世代との交流はあまりなかったという。「この既存の力強いコミュニティを軸に、多世代の住民同士が関わりを持てる拠点をつくりたいと考えました」と白川さん。多世代かつ、多様な人々が日常的に集える交流の場を創出することで、様々な住民サービスが自発的に生まれる環境をつくりたい、そんな思いから同市の「複合型コミュニティづくり事業」が始まった。

その1つとしてスタートした事業が、萩の台住宅地自治会で実施されている「こみすて」だ。“ごみ捨て”と“コミュニティステーション”をかけて名づけられており、各種資源の有効活用やコミュニティの活性化を図ることが目的になっている。モデルとなっているのは、持続可能なまちづくりを支援している民間企業の「アマタ」が、宮城県南三陸町で行った“資源循環”を核とした事業「MEGURU STATION」。同事業を参考に令和元年度、2つの自治会を対象とした実証実験を実施。それを経て現在は、住民主体の運営が行われている。

こみすての軸となるのは、生ごみから液体肥料とメタンガスをつくる「生ごみ資源化装置(通称、メタン君)」。自治会館横の緑道に設置されており、住民が日々排出される野菜くずなどを持ち寄ることで、メタン君を介して多世代が交流する拠点が生まれている。さらには、地域住民が主体となって、ミニイベントなどを実施することで、世代間の交流促進に取り組んでいるようだ。

同事業の運営には、同市と市内の民間企業や市民団体が共同で設立した「いこま市民パワー」が伴走支援をしている。また、ノウハウを持つアマタ社から出向しているスタッフがその活動の支援を担当しているという。



ほぼ全ての住民が日常的に行っている“ごみ出し”に着目。無理のない形で交流できる仕組みをつくることで高齢者と若い世代のつながりが生まれ、身近な環境問題を一緒に考えるきっかけにもなったという。

### 多世代の住民同士が交流し地域の助け合いが増える。

「住民の中には“ごみ置き場がくる”というマイナスイメージを持つ人もいましたが、多世代が交流することの楽しさを再確認するにつれ、今では地域住民が主体となってイベントなどが開かれるようになりました」。

メタン君の1日の生ごみの処理能力は最大35kgで、液体肥料は70L、バイオガスは3,200L生産できるという。このガスは3.2時間利用できる計算で、実際に料理をすることも可能とのこと。また、生ごみ資源化装置に名前をつけ、生ごみの投入を“餌やり”と称するなど、日々の運営も含めて住民に任せることで、生き物を世話するような当事者意識や、環境問題への改善意識なども育まれていったという。